

# 様々な視点で生徒会活動を見つめなおす

## 交流を通し改めて伊敷中生徒会の素晴らしさを実感



花山中との交流の様子(上) 中国総領事館との交流の様子(下)

7月30日(金)、ZOOMにて交流会が行われました。今回の交流会は、京都市立花山中学校と福岡県にある中国総領事館によるものです。

### 京都市立花山中との交流

京都市立花山中学校との交流では、花山中の生徒会役員と伊敷中の生徒会役員で、お互いの学校の特色や活動を発表し合いました。発表し合うことで、自分たちの学校にはない取組を知ることができました。発表後は、フリートークの時間を

あすなろ  
翌檜新聞



志寛錬

第7号  
2021.9.6  
第75代  
伊敷中生徒会



### 中国総領事館との交流

を設け、親睦を深めました。他県の学校との交流を通して、生徒会長の峯苦泰志さんは「遠く離れた中学校の取組を知り、悩みを共有できてとても嬉しかったです。コロナ禍でもこのような貴重な機会を設けてくださった先生方に感謝したいです。」と話していました。花山中との交流で学んだことや気付いたことをこれから生徒会活動に取り入れ、更なる活性化をめざしていきたいと思っています。

今回の中国総領事館との交流は、昨年度の生徒会の活動である「中国救うぞ大作戦」でつながることのできた縁です。先輩方が始められた活動が、私たち後輩に新たな活動をつなげてくださいました。様々な方との交流を通して、様々な視点で活動を見つめ直すことができました。また、伊敷中の生徒会の取組を参考にしたいという声もいただき、改めて伊敷中生徒会の良さを実感する機会となりました。これからも誇りをもって生徒会活動に取り組んでいきましょう。

(田代紅愛)

## FACE

美術部部长  
牧之瀬ひなた  
美術部副部长  
川俣匠平  
美術部副部长  
田平帆菜



今回のFACEは美術部のみなさんです。鹿児島市の神社で7月に行われる六月灯。毎年楽しみにしている人もいるかと思いますが、コロナ禍のため、今年も開催されませんでした。お祭り自体は開催されませんが、灯ろうは灯されました。伊敷中美術部の皆さんは灯ろうを作り、照国神社に奉納しました。



Q1 灯ろうを作るとき工夫したことは。  
A1 たくさんの人に見てもらうためにたくさん色を使って仕上げた。(田平)

Q2 灯ろうを作り終えた感想  
A2 照国神社の一番いいところに飾っていたら嬉しかった。(川俣)

Q3 今後の活動予定  
A3 体育大会の看板を美術部が描く予定。私たちにあって部活動の集大成。三年間で得られたことを生かしたものを作り、後輩に良い姿を見せたい。(牧之瀬)

夏の夜空に美術部のみなさんの灯ろうが映えていました。これからの活躍も楽しみにしています。(芹ヶ野結惟)

### 生徒会の窓

社会の情報化がとてつもないスピードで進んでいます。県内の公立小・中学校でもタブレットが導入され始めました。

タブレット端末を使っていて感じることは、調べ学習が便利になったという事です。三年生の総合的な学習の時間では、一人一人がSDGsについて探究しましたが、一人一台タブレットを使うことで、作業の効率が上がったように感じました。

このようにとても便利なデジタル機器ですが様々なことに注意しなければいけないトラブルに繋がりがかねません。

(峯苦泰志)

### 編集後記

コロナ禍のため夏休みの出校日がなくなり、二学期も分散登校となっています。生徒会新聞も予定していた記事を変更しての発行です。翌檜部員が集まって新聞作成することができないので、今号は表面だけの発行になりました。また通常の学校生活に戻り次第、みなさんが伊敷中の誇りをもてる新聞づくりに励んでいきたいと思っています。表面だけの発行となりましたが、夏休みの活動を少しでもお届けできたらと思って作りました。どうぞご覧ください。

(芹ヶ野結惟)

# 様々な視点で生徒会活動を見つめなおす

## 交流を通し改めて伊敷中生徒会の素晴らしさを実感



花山中との交流の様子(上) 中国総領事館との交流の様子(下)

7月30日(金)、ZOOMにて京都市立花山中学校と福岡県にある中国総領事館と交流会が行われました。

京都市立花山中学校との交流では、花山中の生徒会役員と伊敷中の生徒会役員で、お互いの学校の特色や活動を発表し合いました。この学校にはない取組を知ることができました。発表後は、フリートークの時間を設け、親睦を深めました。他県の学校との交流を通

して、生徒会長の峯吉泰志さんは「遠く離れた中学校の取組を知り、悩みを共有できてとても嬉しかったです。コロナ禍でもこのような貴重な機会を設けてくださった先生方に感謝したいです。」と話していました。

花山中との交流で学んだことや気付いたことをこれから生徒会活動に取り入れ、更なる活性化をめざしていきたいと思います。

**中国総領事館との交流**

福岡県の中国総領事館との交流では総領事館の方々

今回の中国総領事館との交流は、昨年度の生徒会活動である「中国救うぞ! 大作戦」でつながることのできた縁です。先輩方が始められた活動を私たち後輩の新たな活動につなげることができました。

また、今回の交流を通して、様々な視点で活動を見つめ直すことができました。交流後には、伊敷中の生徒会の取組を参考にしたいという声もいただき、改めて伊敷中生徒会の良さを実感する機会となりました。

これからも誇りをもって生徒会活動に取り組んでいきます。

(田代紅愛)

から中国の歴史や若者の流行など、中国について話を聞きました。交流の中では、簡単な中国語講座もありました。中国語での自分の名前の読み方や「鹿児島」「伊敷」などの読み方も教えていただきました。

中国総領事館との交流を通して副会長の新地勇太さんは「中国についてあまり知らなかったので、直接中国の方にお話を聞くことができ、様々なことを学ぶ機会となりました。」と話していました。

あすなる  
**翌檜新聞**

**中**

志 寛 錬

第7号  
2021.9.8  
第75代  
伊敷中生徒会

Team

**生徒会の窓**

社会の情報化がとてつもないスピードで進んでいます。県内の公立小・中学校でもタブレットが導入され始めました。

タブレット端末を使っていて感じることは、調べ学習が便利になったということです。三年生の総合的な学習の時間では、一人一人がSDGsについて探究しましたが、一人一台タブレットを使うことで、作業の効率が上がったように感じました。このようにとても便利なデジタル機器ですが様々なことに注意しなければいけないトラブルにつながりかねません。

例えば、「スマホ依存」。

スマートフォンの使い過ぎると手放せなくなってしまう。何よりもスマホを優先する人間になってしまふと、普通の生活が送れなくなってしまう。そうならないためにも、家庭内でルールを決めることが大切です。

一学期に行われた情報モラル講演会では、インターネットへの投稿やメッセージのやりとりの中で気を付けるポイントなどを学び、相手の立場に立って考えることが大切だと教わりましたね。

私たちも電子機器との付き合い方を考え、正しい使い方、安全に利用できるようにしましょう。

(峯吉泰志)

今回のFACEは美術部のみなさんが作った灯ろうが飾られたのが照国神社の六月灯。六月灯を楽しみにしていた人もいたと思います。今年も開催されませんでした。お祭り自体は開催されませんが、灯ろうは灯されました。

夏の夜空に美術部のみなさんの灯ろうが映えていました。これからの活躍も楽しみにしています。

(芹ヶ野結惟)

**FACE**

美術部部长  
牧之瀬ひなた  
美術部副部长  
川俣匠平  
美術部副部长  
田平帆菜

**編集後記**

コロナ禍のため夏休みの出校日がなくなり、二学期も時差登校となっています。生徒会新聞も予定していた記事を変更しての発行です。翌檜部員が集まって新聞作成することができないので、今号は表面だけの発行になりました。また通常の学校の生活に戻り次第、みなさんが伊敷中に誇りをもてる新聞づくりに励んでいきたいと思っています。

表面だけの発行となりましたが、夏休みの活動を少しでもお届けできたらと思って作りました。どうぞご覧ください。

(芹ヶ野結惟)

Q1 灯ろうを作るとき工夫したことは。  
A1 たくさんの人に感動してもらうためたくさんの色を使って仕上げた。(田平)

Q2 灯ろうを作り終えた感想  
A2 照国神社の一番いいところに飾っていたら嬉しかった。(川俣)

Q3 今後の活動予定  
A3 体育大会の看板を美術部が描く予定。私たちにあって部活動の集大成。三年間で得られたことを生かしたものを作り、後輩に良い姿を見せたい。(牧之瀬)

